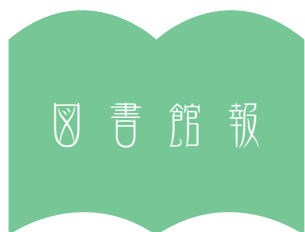




創価大学

Discover your potential
自分力の発見



2012 . 11 vol.19

SEASON



ISSN 1349-3760

創価大学図書館 浅山 龍一館長『魯迅に思う―「中国館」開設を祝しつつ―』… 2

特集 WLC/AV ライブラリーのご紹介 … 4

図書館からのお知らせ … 6



魯迅に思う —「中国館」開設を 祝しつつ—

図書館長
浅山龍一

り、中国の作家・魯迅について聞いてみた。今回の贈呈図書にも彼の全集が入っている上、創立者が「特別文化講座」（2005年3月）で論じられたこの作家が実際のところ、中国人にとってどういう存在なのか、生の声を聞いてみたかったのである。答えはすぐに返ってきた。「魯迅は中学や高校の教科書に必ず入っています。中国は統一教科書なので、全中国人が学ぶことになります。」それほど中国にとって重要な作家なのである。『狂人日記』や『阿Q正伝』が掲載されているという。「私は魯迅以上の中国の作家を知りません」とも言われた。

私は重ねて質問した。『狂人日記』の主人公や阿Qの生き方をみると、狂気じみていたり、ずる賢く生きており、決して模範的とは言えません。彼らの物語を掲載するのは中国人にとって教育的ではないのではないですか。なぜ、教科書に取り上げるのですか。」すると、教授は「人間について言いくいことを書くのがすごいのです」と逆に評価した。なるほどと思った。創立者も「特別文化講座」の中で、「人間が変わらなければ、いくら政治の看板を変えても、かえって支配の道具に使われてしまっただけだ。ゆえに、まず、人間の精神を変革せよ—これが魯迅先生の結論であった。……魯迅文学は、まさに『人間革命』の文学であったのである」（P・58）と述べておられる。言いくいこと、人間の弱い所を描き、自己変革・自我の確立を促す文学—魯迅文学は、まさに中国における「近代文学」の始まりであったといえる。

これらの作品について少し述べてみたい。まず、時代設定は、魯迅が生きた当時の中国社会をそのまま反映している。それは、古代より続いた君主制が近代西欧文明の影響を受けて、まさに崩壊しようとしている清朝末期。政治は混乱し、搾取、差別、暴力が横行。巷には革命の空気が漂っている。最初に、『狂人日記』（1918年）。主人公の男は役人であるが、「被害妄想」という病気にかかっている。彼の闘病日記がこの作品というわけである。彼は綴る—やつらの目の色は同じだ。……

ご貢献が高く評価されたわけである。なお、すべて中国語なので、くに中国語を学ぶ学生の皆さんには奮つてこれらの書籍を活用していただきたい。今回の贈呈の件は7月4日付『人民網日本語版』（中国共産党機関紙『人民日報』の日本語版）にも紹介されている。

さて、その数日後に中国からの交換教員の先生とお話する機会がある。

本年7月3日に中国政府より「日中国交正常化40周年」を記念し、日本で唯一、創価大学に1500冊の中国図書が贈呈された。これに伴い、大学の中央図書館内には、新たに「中国館」が設置され、贈られた書籍は順次ここに収められる。今後、さらに1500冊が届く予定である。まことにめでとうございませう！創立者池田先生の日中友好への

顔色も同じだ。……おれを食おうとしている。……原因は、おれが20年前に古久さんの帳簿を蹴飛ばしたこと。……親に教えられて子供たちもそういう顔をしている—このように思ひ詰めた主人公の視点からすれば、弱肉強食の社会は多分、「人食い」に見えるのだ。

これは、人間社会のあるべき調和と振る舞いを説いた儒教道徳の国には考えられない展開である。軍事的にも精神的にも西欧近代文明に圧倒される中、中国文明が崩壊しつつあるのがよく分かる。主人公は「（こは）四千年以来いつも人を食ってきたところ」とまで言い、最後に「子供を救え……」とつぶやいて終わる。中国にとつて冒涇とも言える発言だが、ノイローゼに陥った人間の心の動きをよく描いたともいえる。

次の『阿Q正伝』（1921年）では、強者のもとで要領よく立ち振る舞う阿Qの生き方が描かれている。たとえば、強い相手に出会ってたたきのめされたとき、「息子になぐられたようなもの」と自分に言い聞かせれば耐えられる。ムシャクシ

ヤして自分で自分をなぐることもある。打ったのは強い自分であり、打たれたのは別の弱い自分のような—つまり、自分が勝つたような気分になり、満足する。何という解決法か！一方、自分より弱い者を見つけると悪口を言ったり、攻撃したりして、いい気持ちになる。仏教でいう「畜生的生き方」—強者におもねり、弱者には横柄に出る態度—であるが、魯迅は「奴隷根性」と呼んでいる。そして、都合が悪くなると村を逃げ出す。強そうな者にとり入って裕福になつて戻ってくる。その姿をみた村人たちは、彼の機嫌をとり始める。彼らも、「奴隷根性」を見せているのだ。そして、（辛亥）革命党の旗色がよいと、皆、革命党に入ろうとする。が、なぜか、阿Qは入れてもらえない。物語の後半。ある金持ちの家に泥棒が入り、阿Qは疑いをかけられ逮捕される。そして銃殺刑で死ぬ。「助けて」という言葉を残して……。何ともはや、やりきれない作品である。イソップ物語の蝙蝠（こうもり）の話—蝙蝠が、ネズミでもなければ鳥でもないと言ひ訳をしながら、その

時々都合のよい側につこうとして右往左往する話—を思い出す。阿Qがそうなら、村人たちも同類である。この物語を通して、魯迅は社会体制がどのように変わつても、構成する人間たちがこうであれば何も変わらないといったかったのである。

翻つて、これは現代日本の「いじめ」の問題に通じる物語ではないだろうか。

1840年代に、アメリカの作家エドガー・アラン・ポーが「いじめめる側」の心理—人間が自分より弱い者を見つけ支配することで優越感という快感を得、自分に自信をもつ—をいち早く描いたが、魯迅が描いたのは「いじめられる側」がはけ口として示す心理—強者に媚び、弱者をいじめめる「奴隷根性」—だったと言える。そして、中国が中・高等学校の教科書にこれらを取り入れるということは、子供たちに早いうちに人間のもつこの悪弊、畜生根性を指摘し、予防教育を期しているとはいえないか。

創立者は、「人間の心の葛藤を表現しようとしているのが、文学なの

です。だから、人間主義者として一生を生きるならば、文学を読まなければならぬ」「文学を知れば、千変万化する万華鏡のような人間模様と心理を、ありのままに観てとることが出来る。また、踊る無数の波の奥深くに、大いなる生命の大海を見抜くこともできるのです」（『人生の座標』P・160、P・163）と述べられている。

とくに教育者を目指す方々は、人間の心の弱さ・脆さ—それは「いじめ」を生む温床でもある—を知るためにも、魯迅の他、ポーや（彼が影響を与えた）ドストエフスキーをぜひ読んでおいてもらいたいと思うものである。

〈参考文献〉

『阿Q正伝』魯迅 増田渉訳（角川文庫）＊『狂人日記』も収められている。

『創価大学創立者池田大作先生特別文化講座』（学校法人創価大学）『池田大作語録 人生の座標』池田大作（グラフ社）



特集 AV ライブラリーのご紹介



カウンターで
聞きました！



Q AVライブラリー
の特徴は？

が多いのですか？

DVD視聴ができる
スペースが広く、語学
学習のためのCD・図
書を多く所蔵していま
す。語学教材は、学習
レベル別になっている
ものもあります。

Q どのような利用者

主に、語学力を高め
ることを目的に留学を
目指したり、授業に活
用するために利用され
る方が多いです。
利用方法としては、
世界の様々な物語を読
んで、語学の向上を目
指されています。また、
CALL2では、DV

ですか？

D映画を観ながら英語
の発音練習をされてい
ます。そのほか、「週
刊ST」、「NICK E
I」、「ASAHI」等
の雑誌や英字新聞を読
んで勉強されていま
す。

語学が好きで向上さ
せたい方、留学を目指
している方、また苦手
な方、初めて英語に取
り組む方や教材に迷っ
ている方などにも来て
いただきたいです。

をかけて、共に喜びを
わかち合うことができ
ました。
Q AVライブラリー
担当の方はどのよ
うなことをされて
いるのですか？

いつも清掃・整理・
整頓をして、利用者の
皆さんに気持ちよく
使っていただけるよう
にしています。

また、資料の保存環
境を整えるために、部
屋の温度・湿度に目配
りしています。

カウンターにいても
部屋全体をみて利用者
が快適に学習できるよ
う常に心配りをしてい
ます。

そのほか、DVD視
聴の操作方法・CDの

Q 語学が苦手な方に

は敷居が高い（入
りにくい）のでは
ありませんか？

Q ここ数年で、利

用者数など変化し
たことはあります
か？

わかりやすい教材を
ご案内し、他の方の体
験を話して自信を持っ
て頂いています。丁寧
にお話を伺い、アドバ
イスをさせて頂きます
ので、ぜひカウンター
までご相談ください。

Q どのような方に利
用してもらいたい

利用者数が増えまし
た。また、AVライブ
ラリーで毎日5〜7時
間勉強されていた創価
大学経済学理論同好会
のメンバーが経済学検
定の大学対抗戦で10
連覇を達成されまし
た。その時は、1人1
人に良かったね!!と声

語学に関する 教材・施設が充実！



英字新聞の読み比べやグ
ループでのDVD視聴も
できます。



グループでDVDを見な
がら、英語をゲーム感覚
で学べる教材もあります。

図書館からのお知らせ



第7回 読書展が行われました

十月七日・八日に行われた創大祭で、SRP (Soka Reading Project) 主催の読書展が行われました。

今回の展示「なぜ本!!〜どんと来い活字文化復興〜」は、活字復興部門、親子向け部門、偉人部門の三部門に分けて行いました。

SRPメンバーそれぞれが「なぜ本を読むのか」「読書とはどういうものなのか」を考えて制作し、展示をご覧

になった皆様に「読書をする理由」について考えて頂ける展示を目指しました。

活字復興部門では、従来の書籍と近年注目されている電子書籍との比較を行い、所蔵図書の紹介を「創立者」「文学」「ビジネス」「自然」「暮らし」「秋」の6つの項目にわけて行いました。ご来場者の中には、熟読されている方もいらっしゃいました。

親子向け部門では本の読み聞かせや絵本・児童図書の展示を行いました。親子で絵本を楽しむ様子が見られました。

偉人部門では、トマス・エジソンや樋口一葉、竹中半兵衛などの歴史上の人物に関連した図書を展示しました。各地から多くの方々にご来場いただき、創大祭とともに楽しんで頂けた読書展となりました。



→ 創立者著作図書展示の様子



→ 読み聞かせの様子。
親子でご参加頂きました。



→ 活字復興部門。
手作りのPOPに力が入ってます！

